来迎寺跡墓塔群

【所 在 地】いちき串木野市大里 1197

【種 別】県指定史跡

【指定年月日】昭和42年3月31日



来迎寺跡は,島内集落の南の雑木に囲まれた小高い台地にある。来迎寺は,古代から中世に至る市来院(現在の市来町,東市来町にあたる)を支配した郡司市来氏の菩提寺といわれているが,明治3(1870)年に廃仏毀釈により廃寺となっている。

寺跡にある墓塔群は、住僧らのものを除き市来院郡司一族の墓であると思われる。墓塔群は、文永 12 (1275)年の刻銘がある丹後局の墓と伝えられる石塔婆と近世の無縫塔以外は年記のあるものはないが、いずれも鎌倉・室町時代のものと思われる。

参考

石塔 石塔は石塔婆の略称で,石造りの卒都婆のことである。今から約 2,500 年前ごろの古代インドで用いられたサンスクリット語の「スツーバ」を中国の漢字にあてはめて卒都婆と音読されたもので,その文字が仏教とともに,わが国に伝わり「ソトバ」と読まれ,簡略化されて塔婆になり,石造りされたものを石塔というようになったのである。

本県の石塔には大別して層塔,宝塔,多宝塔,五輪塔,宝篋印塔,無縫塔,笠塔婆, 板碑,石幢等がある。